

誕生日に母を語る

誕生日は年に一度自分を産んでくれた「お母さん」を思う日…。



母のぬくもりはあまり感じたことがないけれど…

佐藤るみ(50歳)横浜市

実は、あんまり母のぬくもりって感じたことがなくて。お料理もお裁縫も編み物も何でも上手で、健康で、明るくて、若くて。家のことを一生懸命考えている(ような)母でしたが、どこかさっぱりしていて、自分は自分、というものがあつたのでしよう。

小さい頃、のどに飴を詰まらせた私をおぶって病院へ行くこととする母。休日だったのか、時間外だったのか、病院のあてがなく、あちこち聞き回る母の背中、苦しいながらも感じていたぬくもり。母方の祖父が亡くなったと

き、2〜3日も付き添っていたので、とりあえず一旦自宅へ戻ろう、となった車の中で、そつと握った母の手。それがもう結婚後のことで、この間母の肌に触れた記憶がありません。

それらのことを、昨年割り切ったつもりでいましたが、人間、そう簡単に割り切れるものではないんですね(笑)。もしかしたら、その反動が今子離れできない私、なのかもしれません。

大学に入った年に体調を崩して、母のそばでないと眠れなくなりました。「こんなに大きくなって」と鬱陶しがられながら、両親の寝室と続きのお茶の間に布団を敷いて寝ました。

ちょうどその頃、どこかの温泉に出かけたときに、母に銀色の華奢なブレスレットを買ってきてもらったことがうれしくて、当時、すぎる気持ちで出入りしていたカウセリングルームで話したら、カウセラーの先生がとても喜んでくださったって、うれしくて母に報告したら「そんなくだらないこと話して」と言われ、悲しかったこと。

あとからあとから思い出出すこと思い出すこと(笑)。あら、私、まだまだ消化しきれてないんだわ。

text: 木村 乃

ビスデザイン株式会社 dk@biz-design.co.jp

子どもの存在を愛おしく思えますか?



わが家から幼児が消えた。連れ去られたわけではない。末の子がついに小学校に入学したのだ。うれしい気持ちはもちろんあるが、多少の寂しさは否めない。

上の2人を見てきたからわかる。小学校に入ってから成長はすごく速い。あの愛らしい笑い声が、わが家から消えていくのだ。

コンサルタントをしている知人女性(小さい子どもがいるお母さん)とそんな話をしたら、彼女も「それは寂しいですね。いつかは来るんですね〜、そんな日が」と仰っていた。

「子ども」が嫌いという人が時々いる。あの甲高い声が嫌いだ、などと言う。自分だってそうだったくせに!と思う。

「子ども」だった頃の自分を忘れてしまうと、そういう大人になってしまうのだろうか。いや、大人になりきれていないから、そんな風に思ってしまうのだろう。社会における「子ども」という存在を愛おしいと感じられないとすれば、とても残念な大人だと思う。

あなたは「子ども」が好きですか? お父さん。

オババの育児日記

孫育て、早くも失敗?



誕生日を迎え、めでたく4歳になったたっくんは、最近目覚ましい成長ぶりを見せている。特に文字に関心があるようで、外出するたび、あちこちの表示を指差して、「これ、何て書いてあるの?」と質問してくる。「館内は禁煙です」「犬や猫はお断りです」「ゴミは持ち帰ってください」…。

まだ文字はわからないが、添えられている絵を見て、「犬や猫はダメって書いてあるんだよね(ワンワン、ニャンニャンも卒業!)と解説する。そうか、子どもって、こうして文字を絵のように焼き付けて覚えていくんだな。そんなある日のこと。いつものように「これ、何て書いてあるの?」と聞かれ、「えっと、えっと…、やぶきたくとくんはどうしてそんなにかわいいのでしょうか?と書いてあります」と言うと、たっくんは「まったく、ウソつけえ〜」と言わんばかりの顔をした。その顔は、ちょっと前のたっくんではなく、もう、何でもわかっていう大人のたっくん。その顔を見て、ふと胸騒ぎが。

もしかしてたっくんは、文字に興味を持ったのではなく、こうして、自分とは違う人間とのコミュニケーション(反応)を楽しんでいるのかもしれない。つまりたっくんにとって、一つひとつの出来事はすべて学びであり、経験値として脳にインプットされ、今後の生育に影響を及ぼすものである。

となると、あ〜ヤバイ。どうしよう。あの日、公園から早く帰るためにコーラで釣ったこと、チャーちゃん(私)のおっぱいからはビールが出ることを教えたこと、クリスマスプレゼントを早くあげたくて、「サンタさんが早めに来たみたい」とウソをついたこと、1個でいいミニカーを、2倍喜ばせたくて、2個買っちゃったこと…。

そういう日々の生活の中で「オババ」という人間を見られているわけで、はっきりいって、もう手遅れ。オババは、いつでも欲しいものを買ってくれて、いつでも抱っこしてくれて、いつでも自分を一番好きと言ってくれる人だということが、完全にバレている。このままでは、子育てだけでなく、孫育ても失敗だあ〜!

はい! だから、お母さん大学で勉強させていただきます。同級生には素晴らしいお母さんたちがたくさんいるので、一生懸命勉強に励みたいと思います! どうぞよろしく! (藤本オババ)

食を支えるお母さん

生産者の元気が土にも野菜にも伝わっている!

天野グループ代表 天野道子さん(愛知県安城市・69歳)



安城市は「日本のデンマーク」といわれる農業の盛んなまち。中でも「天野グループ」は、環境保全型農業を長く続けていて、女性3人を中心とした生産者の集まりです。しかも偶然にも、3人そろって名字が天野さん! 代表の天野道子さん(69歳)の夫・義三さん(70歳)も定年退職を機にメンバーに加わり、今は4人で無農薬、省農薬栽培の野菜づくりをしています。

育てている野菜は、ほうれん草、小松菜、大根、ニンジン、レタス、小かぶ、白菜、春キャベツ、らっきょうなど。3人の子どもを育てながら、今まで35年近くこだわりの農業をしてきました。「野菜づくりを始めたきっかけは、世代交代、

両親も弱ってきていて、そろそろ考えたときに、この土地が野菜づくりに適していることを知りました。自然の流れだったのだと思います」。出荷は毎年10月から翌年6月まで。7月〜9月はお休みですが、7月は土づくりです。「島本微生物農法」の講演を聞いたのは20年前。以来、土づくりの難しさ、大切さを実感して取り組んでいます。「土の中に有効微生物が増えると悪玉微生物が減ってよい土ができ、いい野菜が育つ。人間も善玉菌が増えるとお通じがよくなるのと一緒ですよ(笑)」。子育てで真つ最中の頃は、畑と家を行ったり来たりで大変だった道子さん。子育てにはどんな「苦労」が?

「末娘が4か月の頃、お乳が張ってもすぐに飲ませてあげられなかったのがかわいそうで辛かった。上2人の男の子は、忙しいと農作業を手伝ってくれました。ある日近所の農家から梨をいただき、これは農家がかかっていますか?なんて真顔で聞いて、大人が面くらっちゃって! 親の言うことは聞かないけれど、親の背中は見

3人の天野さん。右端が天野道子さん



★次世代BOX「やさい」を3名様にプレゼント! (詳しくは8頁) 取材協力●にんじん CLUB http://www.ninjinclub.co.jp/

●池川クリニック 横浜市金沢区大道2-5-13 TEL045-786-1122

逆子の分娩・ドラゴンボール(ごう)

池川明の胎内記憶 www1.seapie.icc.ne.jp/akegawa



池川クリニック院長 池川明

■帝京大学医学部大学院卒、医学博士。1989年横浜市に、産婦人科・池川クリニックを開業。「胎内記憶」の研究発表がマスコミで紹介され話題に。著書やDVD多数。

以前は、逆子はほとんど普通に経産分娩できたのですが、最近は帝王切開が主流。しかも予定日まで待つと陣痛が起きてしまうため、37週〜38週で、予定帝王切開という方法をとる病院がほとんどです。ところが最近、陣痛が起こる前に行う予定帝王切開では、いろいろトラブルが赤ちゃんに起こりうる可能性を指摘した論文が出てきました。「ニューイングランドジャーナル」の論文によると、37週で分娩した新生児は、39週で分娩した新生児に比して新生児の合併症の発生が2倍、38週では1.5倍となっていたそうです。従ってなるべく予定日近くまで帝王切開を待たせたいという結論づけられています。帝王切開も陣痛が来てから行ったほうが安全で、赤ちゃんがお腹の外で生活する準備ができるようです。

逆子になるのは、個人的な経験から、赤ちゃんが何か「両側に訴えたい場合、体が冷えている場合、心が冷えている場合、逆子のほうが居心地がいい場合などがあるようです。骨盤位体操、お灸、鍼、漢方薬、外回転術などで直しますが、いずれにしても、赤ちゃんの気持ちを聞き取るのが大事だと思います。最近「ドラゴンボール(ごう)」というのをやっていただいています。ママのお腹に手をあてて赤ちゃんの「気」を感じていただき、気のやりとりをすることで赤ちゃんの気持ちを感しようとする試みです。「気を感じてください」と言っても意味がわからない人が多いのですが、「元氣玉をつくってください」と言うと、ほとんどの男性は簡単にイメージできるようです。

「元氣玉」とは、世界中が熱狂する鳥山明氏のコミックス「ドラゴンボール」の主人公、悟空の技です。「ソフトな元氣玉をつくってママのお腹にそっと入れてください」とお願いすると、たいていの方はやってくださいます。さらにママのお腹に手をあててお腹の中に元氣玉をつくと、赤ちゃんはともももが暖かさがいいようです。すると、赤ちゃんのイメージが光や暖かさが柔らかなでパパに伝わるようです。その気を感じて赤ちゃんの気持ちを感じ取ってください、ということをお伝えしています。

もともと「元氣玉」は相手を倒す技。これを平和利用しようという話ですが、悟空が元氣玉を集めるときに「みんな、オラに元氣を分けてくれ」という台詞で人々に呼びかけます。これは、妊婦さんや生まれる赤ちゃんに元氣を分けるという行為を、周囲の人々にしていただきたい私の気持ちと一緒です。「ドラゴンボール」と「赤ちゃんへの話しかけ」、この意外な組み合わせが、いいお産につながるのではないかと考えています。こんなことを言うと、作者の鳥山明氏に怒られて「かめはめ波」で飛ばされてしまうかもしれません(笑)。

最後に宣伝です。最新刊「ママ、生まれる前から大好きだよ!」胎内記憶といのちの不思議」が学習研究社から出版されました。今回本を企画した編集長から「読んでいて涙が出てしまいました」と言われた本です。ぜひご覧ください。